



# やり抜く、考え抜くための「場」を与える

## <関西学院大学 総合政策学部の事例>

総合政策学部国際政策学学科教授

### 西野桂子

にしのけい子●国際基督教大学卒業後、ジョーンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院にて国際関係学修士号取得。国連児童基金(UNICEF)などを経て、2013年から現職。

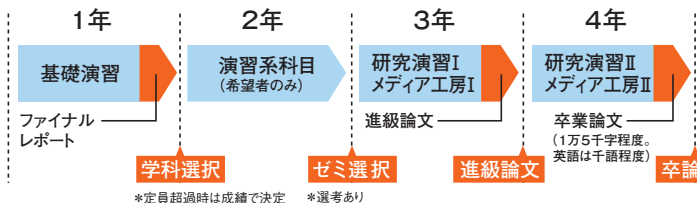
### ハードルを乗り越える経験が「学びの充実」をもたらす

本学は、国境や民族の壁や苦難を乗り越え、世界の人々と寄り添い社会を変革する人材「世界市民」の育成をミッションに掲げています。本学部のカリキュラムも、この人材像を目標に組み立てられています。

学生の能力を伸ばすため、4年間の随所に「修羅場」を設けています。1年次の学年末からレポート提出を義務化。2年次の学科選択、3年次のゼミ選択には成績や面談による選考があり、4年次に進級するには論文審査への合格が必要です。これらのハードルを乗り越えることにより、学生の思考力やストレス耐性は飛躍的に高まります。また、3・4年生らが研究成果を発表する「リサーチ・フェア」は、高校生や他学部生も参加する一大イベントとなっており、プレゼンテーションスキルや最後までやり抜く力を鍛える絶好の場となっています。

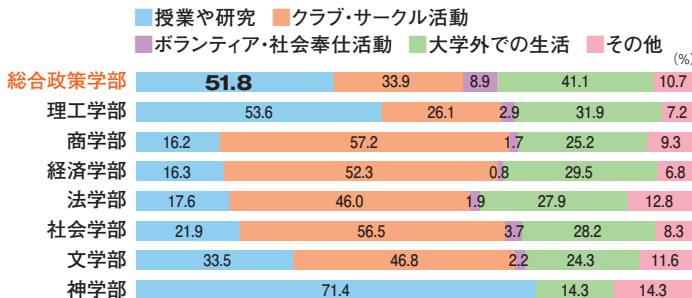
こうした取り組みの成果は「授業や研究」に充実を感じる学生の多さに現れており、今後も正課を通して、社会に通用する能力の育成を進めていきたいと考えています。

### 4年間の学びの流れ(抜粋)



### 大学時代に充実していたこと

\*対象は2011年度卒業生



\*出所:関西学院大学高等教育推進センター、(2012)「第3回(2011年度)関西学院大学卒業生調査報告書」13ページ図2-2の一部(複数回答)